



**ロールモデル講演会とは！** ワークライフバランスを保ちながら研究面でも優れた業績をあげている海外の女性研究者を招き、その国や所属する研究機関の女性支援制度や自らの経験について講演してもらうことで、女性研究者のワークライフバランス向上に役立てることを目的としています。

### ■8月5日に第3回ロールモデル講演会を開催しました。



今回は、アメリカ合衆国農務省の農業研究サービス(USDA-ARS)のウチミヤ博士をお招きし、「アメリカ農務省の女性研究者：農業研究サービス(ARS)人員計画における被雇用者と組織の利益」と題し、ご自身のキャリアや生活、連邦職員としての待遇が職員のワークライフバランスの維持にどのように役立っているかについて、同僚へのインタビューの結果を交えてご紹介いただきました。所内を中心に約30名の参加があり、講演後には数多くの質問が寄せられ、時間いっぱいまで賑やかな討議が続きました。

### ■女性職員が働き続けられるワケ

現在のUSDA-ARSの女性職員は常勤職員全体の42%、平均年齢は46歳だそうです。このように、女性が子育てをしながら長く働くことができる秘密について、何点かご紹介がありました。

一つめは、週40時間の労働時間を同じ週内で自由に配分できるシステムで、勤務時間を自分や家族の都合に合わせて調節できるそうです。二つめは、未消化の有給休暇を同僚に寄付できる制度で、病気や妊娠・出産で長期の休暇が必要になった人も、全国から寄付された休暇を使って安心して休むことができるそうです。

現在はこのような恵まれた制度がありますが、最初からこうだった訳ではない、というお話もありました。1990年頃は、職員250人の職場で女性がたった4人という状況でした。その後の10年間にこうした制度が整備された結果、2000年以降では全体の雇用が縮小する中でも女性の比率は維持・上昇してきた、という歴史があるのだそうです。さて、日本は？

### ■つくば3研究教育機関男女共同参画シンポジウム開催！

「多様性とそのマネジメント～つくばにおける男女共同参画共同宣言とこれから～」

日時：2011年9月5日(月) 13:00～17:00 会場：つくば国際会議場中ホール3 0 0

主催：農研機構、農環研、筑波大 参加費：無料

申込先：<https://pursue.dc.affrc.go.jp/form/fm/naro003/symposium/>



## News Letter

8月

ロールモデル講演会を  
開催しました号

